

# IEC/TC100サンノゼ会議の報告

## IEC/TC100の概要

IEC/TC100は、オーディオ、ビデオ、マルチメディアシステム及び機器の技術に関連する国際標準化を行っており、民生用分野・業務用分野の機器の性能、測定方法及びマルチメディアシステムの応用、システムと機器間のインターオペラビリティなどの規格化を推進しています。

国内委員会は、当協会（JEITA）が運営しており、国内委員会の委員長は、高木幹雄教授（芝浦工業大学）が務めています。

TC100は、7つのTA（Technical Area）、TC直轄のPT（Project Team）、AGS（戦略諮問会議）、AGM（運営諮問会議）及び規格の保守を担当するGMT（General Maintenance Team）から構成されています。

TC100は、他のTCにおけるSC（Sub-Committee）と同じレベルに相当する組織であるTAから成り、迅速かつ柔軟に対応できる組織運営を行い、各分野に対して業界共通のインフラ作りに取り組んでいます。当該分野における主力開発は日本が中心となっているため、必然的に技術力のある日本が、各TAの役員、PL（Project Leader）を数多く引き受けており、日本からの規格化提案は全体の50%以上を占めています。幹事国は日本が引き受けており（幹事：平川秀治・東芝）、名実ともに中心的な役割を果たしています。

## サンノゼ会議の概要

今回のTC100年次会議は、2005年9月26日から30日に米国サンノゼ市内のソニー・エレクトロニクス社で開催されました。AGM、AGS、各TA・各PT会議、及び総会が行われ、全会議を通して12カ国から延べ222名が参加しました。

### ■ 各会議の概要

#### AGS（戦略諮問会議）

長期的かつ戦略的な新規の規格化提案を諮問する役割を担っている組織です。日本が議長（小町祐史・パナソニックモバイルコミュニケーションズ）を務めており、メンバは各地域（欧州、米国、アジア）の代表で構成さ

れています。

日本からは、オーディオとビデオの同期に関する測定方法、電子出版・電子ブック関連のReader's formatなどを提案し、新規テーマとして規格化を進めることが、今後の行動計画の中に盛り込まれました。

#### AGM（運営諮問会議）

TC100の広い分野を効率的に運営するため、運営上の諸課題について議論する役割を担っており、TC100の議長及び幹事、各TA等の役員で構成されています。

リエゾンリストの見直し、新しいプロジェクトの各TAへの割り振り等を行いました。

#### TA1（放送用エンドユーザ機器）

テレビなどの放送用受信機に関して、受信機の測定方法などをスコープとしています。

今回は、米国からテレビの消費電力測定方法に関する規格化の要求があり、米国メンバを中心にボランティアグループを作り、新規提案文書の検討を行うこととなりました。

#### TA2（カラーマネジメント）

ディスプレイ（CRT、PDP、LCD）、プロジェクタ、プリンタ、スキャナ、デジタルカメラ等の色彩特性測定方法、及び色空間の標準化に取り組んでいます。

日本がPL（Project Leader）を務める2件のプロジェクトについて、動画用拡張色空間xvYCCは、年内に規格発行の運びとなり、オプション色空間opRGBは、米国意見への対応が課題となったため、継続審議されることとなりました。

IEC 61966-2-1（デフォルト色空間sRGB）について、米国から改訂作業開始の提案がありましたが、この規格は既に広く普及しているため、日本からは、慎重に議論すべきとの意見を表明しました。改訂の必要性などを議論するためのアドホックグループを設け、検討することとなりました。

#### TA4（デジタルシステムインタフェース）

デジタルオーディオ、テレビ、ビデオなどのインタフェースに関する標準化に取り組んでいます。

IEC 61937-1（圧縮デジタルオーディオインタフェース：一般）に関して、MPEG2 AACなどの新しい

IEC/TC100 : Audio, video and multimedia systems and equipment

<http://tc100.iec.ch/>

オーディオデータ形式に対応するため、日本から改訂提案などを行い、了承されました。

#### TA5 (ケーブルシステム)

ケーブルシステム (CATV) のインタフェース条件、機器とシステムの性能及びその測定方法、安全、EMC等に関する規格化を行っています。

日本から、今後普及が期待されるFTTH (Fiber To The Home) に関するプレゼンテーションを行い、ホームネットワーク関連テーマへの取組みについて課題提起を行いました。今後の日本の貢献が期待されています。

#### TA6 (放送業務用ストレージ)

放送用業務用記録再生機器及びシステムに関して、放送用デジタルVTRフォーマットやエラーレート表示方法、各種測定方法の規格化に取り組んでいます。

D-7フォーマットは、規格発行の運びとなり、D-16フォーマットも最終段階となりました。メタデータ規格は、データベース形式で発行されるため、その準備に取り組んでいます。今後は、MXFファイルフォーマット、半導体メモリを使ったP2カムコーダなどの規格化が期待されます。

#### TA7 (民生用ストレージ)

民生用録画再生機器及びシステムに関して、デジタルVTRフォーマットや各種測定方法の規格化に取り組んでいます。

DVDプレーヤの測定方法が規格発行の運びとなり、また、DVテープにMPEG-2で圧縮されたHD信号を記録・再生するためのHDVフォーマットを日本から提案し、新規プロジェクトとして承認されました。今後は、DVD/HDDレコーダの測定方法などの規格化が期待されます。

#### TA8 (マルチメディアホームサーバシステム)

マルチメディアホームサーバのシステムやソフトウェアに関連した標準化を行っており、これまで、ホームサーバの概念モデルや放送コンテンツの蓄積フォーマットなどの規格化を行いました。

マルチメディアホームサーバに係わるDRM (Digital Rights Management) 関連のプロジェクトを日本が中



写真1. IEC/TC100サンノゼ会議の様子

心となって推進しており、概念モデルや許諾コードの議論を行っています。韓国からは、CCP (異種ネットワークの共通プロトコル) が提案されています。

#### 2 TC100直轄プロジェクト

既存のTAのスコープに当てはまらない分野のプロジェクトとして、AV機器が扱う個人データのセキュリティに関する設計ガイドライン、電子出版・電子ブックに関する概念モデルや各種フォーマット、TCP/IPを使ったホームネットワークプロトコルなどのプロジェクトを推進しています。

#### 3 総会

IEC設立100周年を記念して規格開発に貢献したエキスパートに贈られるIEC 1906 Awardの受賞者が紹介され、日本からは3名が受賞しました。

今後の重要なテーマであるホームネットワーク関連について、円滑な標準化を推進するためISO/IEC JTC1/SC25 (情報機器間相互接続) との打合せを開始することとなったほか、DLNA (Digital Living Network Alliance) とリエゾンを築くこととなりました。また、TA2とICC (International Color Consortium) との間でCategory Aリエゾンが承認されました。

#### ■ おわりに

TC100の扱うテーマは、機器のネットワーク化が進み、ハードとソフトが一体となった分野に益々移行しつつあり、今後も日本が中心となって新規提案を行っていく必要があります。 (→P37へつづく)

(P39から→) TC100の活性化のためには、各国との連携、特にアジア諸国との協調関係は重要な課題であり、また関連標準化組織やフォーラム、コンソーシアムなどとのリエゾンによる連携関係も更に重要と

なっています。

幹事国としては、標準化の側面から当該分野の産業の健全な発展に寄与するため、諸課題に柔軟に対応していきたいと考えています。



写真 2 . IEC/TC100サンノゼ会議の集合写真